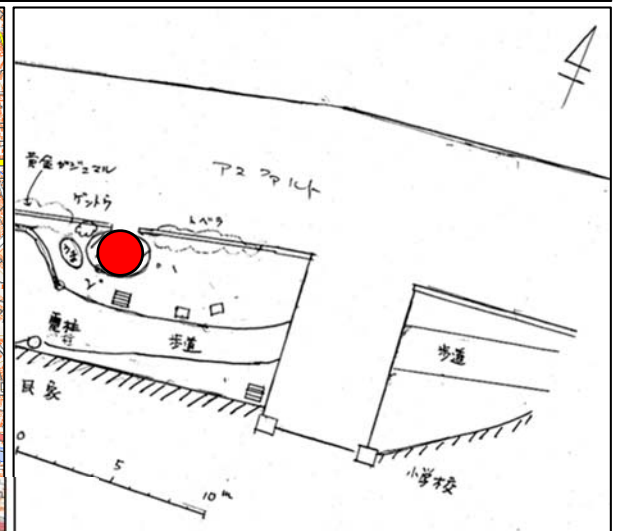


# 城岳のガジュマル



認定番号 92

樹種名	ガジュマル	科名	クワ科	方言名	ガジュマル	学名	Ficus microcarpa L.f.					
形状・寸法	樹高 14 m	胸高周囲 5.1 m	根本周囲 5.7 m	樹幹占有面積 365 m <sup>2</sup>								
	枝下高 6 m	枝張 東 12.6 m 西 14.5 m	南 8 m 北 8 m	最大樹冠幅 27 m								
通称	城岳のガジュマル		樹齢 100 年(推定)	所有者	1 国 2 県 ③市町村 4 その他公有 5 社寺 6 個人 7 会社 8 その他民有 9 不明 備考:平安座自治会所有							
所在地	那覇市楚辺1-13			状況	①単木 2 樹叢中 3 樹林中 4 その他							
立地場所	1 公園 2 庭園 3 個人の庭・屋敷 4 公共施設 5 学校 6 神社寺院 7 拝所 8 市街地 9 街路 ⑩その他(街路樹)			気象条件	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
保護制度	1 国指定天然記念物 2 県指定天然記念物 3 市町村指定天然記念物 4 景観重要樹木 5 保存樹 6 名木 7 その他 ⑧なし				平均気温(°C)	16.8	17.9	18.4	20.9	23.6	26.9	
周囲の状況	1 樹林 a 大面積山林 b 小面積山林 2 芝地 3 耕地 4 建物の間 ⑤道路 6 河川 7 湖沼 8 その他 ( )			(最寄りの7メタステーダ)	降水量(mm)	36.5	55	51.5	36.5	66.5	117.5	
	土地傾斜	①平坦(0~5°) 2 緩(5~15°) 3 中(15~30°) 4 急(30~45°) 傾斜方向:			平均風速	5.0	5.4	5.6	5.1	4.9	5.1	
土壌		①堆積土 2 切り土 3 盛土 4 客土 5 その他 ( )			地点:那覇	風向	NNW	N	SW	ESE	S	SSW
	基岩・母材					月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地形		1 山地 2 丘陵地 ③台地 4 平地 5 尾根 6 中腹 7 谷 8 窪:窪: 9 カルスト 10 埋め立て地 11 海岸段丘 12 その他			2014年	平均気温(°C)	29.3	28.7	28.8	25.4	22.6	17.6
	土性	1 砂壤土:大部分が砂で僅かに粘土を感じる ②壤土:砂と粘土が半々 3 埴壤土:大部分粘土で僅かに砂を感じる 4 埴土:ほとんど砂を感じない				降水量(mm)	212.0	70.5	36.5	252	30	34.5
根元及び周囲の植生		草本 1 密生 ②疎 3 なし 低木 1 密生 2 疎 ③なし			周辺樹木との関係	平均風速	6.3	4.6	4.2	6.7	5.1	5.7
				風向		SE	SW	SSE	ENE	NNE	N	
管理状況	1 柵 a 有 ⑥無 (有の場合の高さ m、材質( ) 柵内面積 ( m <sup>2</sup> ) 設置年 2 支柱 a 有 ⑥無 3 剪定 a 強 b 弱 c 無 ④枝折等の都度処理 4 施肥 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 5 薬剤散布 a 有 b 無 (有の場合 回数 種類 ) 6 解説板 a 有 ⑥無 7 避雷針 a 有 ⑥無 8 定期的な草刈・掃除 ①有 b 無 9 その他			年平均気温	23.1 °C		最高気温	33.9 °C				
	過去の治療歴と内容				年降水量	2584.5 mm		最低気温	10.6 °C			
故事来歴	1 無 2 信仰対象 3 禁忌(タブー) 4 祭事 a 有 b 無 5 いわれの内容 6 不明			潮風の影響	1 なし ②ややある 3 ある 4 やや強く受ける 5 強く受ける(特記)							
	視認性	①遠方からも目立つ 2 近くに行けば見える 3 直前まで見えない 4 敷地内にはいるとよく見える 5 敷地内に入っても見えない (理由 )			日照条件	①良い 2 普通 3 やや不良 4 不良						
特記事項		1 動物生息 a 有 ⑥無 (有の場合動物の種類 ) 2 着生植物 ①有 b 無 (有の場合植物の種類 ハマイヌビワ、オオタニワタリ ) 3 見学・参観者 a 有 b 無 (有の場合その数) 4 その他 生徒・父兄等			周辺樹木の影響	1 なし ②わずかにある 3 ある 4 かなりある 5 深刻((状況)						
					周辺根元の状況	1 土壌の固結がなくきわめて良好 2 固結はあまりなく概ね良好 ③固結している ①a 踏圧あり b 踏圧なし						

地上部の衰退度判定（認定番号92）

評価項目	評価基準				
	0	1	2	3	4
1 樹勢	旺盛な生育状況を示し被害が全く見えない	幾分影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状況が極めて劣悪である	殆ど枯死
2 樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊
3 枝の伸長量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり、細い	枝は極度の短小、ショウガ状の節間がある	下からの萌芽枝のみ僅かに生長
4 梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端がない
5 下枝の先端の枯損	なし	少しあるが目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない
6 大枝・幹の損傷	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ大きく切断されている	大枝・幹の上半分がかけている
7 枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスが取れている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯死が多く葉の発生が少なく、著しく疎	ほとんど枝葉がない
8 葉の大きさ	葉が全て十分な大きさ	所々に小さい葉がある	完全にやや小さい	全体に著しく小さい	僅かな葉しかなく、それも小さい
9 樹皮の傷	傷はほとんどなし	穿孔・傷が少しあるがあまり目立たない	古傷がある	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある
10 樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発	普通	樹皮に活力がない	著しく活力がない	樹皮の大部分が枯死
11 胴吹き・ひこばえ	枝は量が多く胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹き又はひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹きひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹きひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく胴吹き、ひこばえも少ない

衰退度 = 各項目の評価値の合計 / 11 (評価項目) = 0.36

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
		0.8未満 良	0.8~1.6未満 やや不良	1.6~2.4未満 不良	2.4~3.2未満 著しく不良

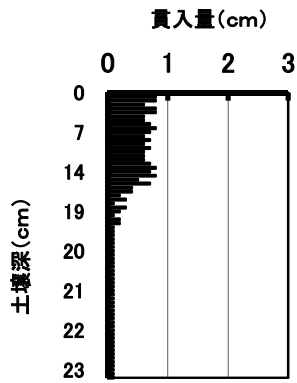
倒木・枝折れ等危険度判定

項目	判定			
	安全	可能性あり	可能性高い	明らかに危険
通行者・建物等との位置関係		○		
根返り	○			
幹折れ	○			
大枝折れ		○		
中・小枝落下		○		
幹の傾斜の増大	○			
その他( )				

土壤調査結果（認定番号 92）

層位	土壤色	深さ	構造	土性	pH	EC(dS/m)
I	7.5~10YR3/3	0-16	—	埴壤土	7.6	2.0
II	10YR4/4	16-	—	埴壤土		

土壤貫入量結果



部位	所見	対応
土壌	・固結している。特に南側の馬の石彫付近の踏圧が著しい。	・可能な限り広い柵の設置を検討する。 ・スポット状の土壌改良を検討する。
根	・露出根は多いが異常は認められない。	・露出根を踏まないよう、柵の設置を検討する。
	・縁石が根の発達の障害となっている。	・縁石の撤去を検討する。
	・地上 30 cmの北東側に空洞があるが、幹と幹の間隙である。	・無し。
幹	・古傷はあるが、異常は認められない。	・無し
枝	・西側の中枝に背着生のキノコの発生が見られる。	・気根を誘導し、支柱根に育成を検討する。
	・南側に伸長している枝が長さ 4m の部位でカットされている。恐らく隣接する民家の敷地内にかかったためと思われる。	・越境枝、不要枝の管理を検討する。
葉	・局所的に葉の小型化が見られる	・無し
備考	・付近の古老からの間取りによると、当該樹木は幹内に電柱を巻き込んでいる。	

